

老人クラブ会員の社会活動レベルの現状

タカハシ ミホ コ シバザキ サトミ ナガイ マサキ*
高橋美保子* 柴崎 智美* 永井 正規*

目的 老人クラブに所属する高齢者の社会活動レベルの現状を記述し、高齢者の社会活動に影響を与える環境条件を検討すること。

方法 1998年10月、埼玉県O市内の228老人クラブに所属する65歳以上の高齢者約10,000人以上を対象に、「いきいき社会活動チェック表」を用いた高齢者社会活動レベル調査を実施した。社会活動4側面別（個人活動、社会参加・奉仕活動、学習活動、および仕事）の「活発者」「不活発者」の割合を基準集団（活発者25%、不活発者25%）と比較した。

成績 207の老人クラブ（90.8%）が調査に協力した。各老人クラブでの調査票回収率は平均82.0%であった。

基準集団と比較して、老人クラブ会員では、「個人活動」「社会参加・奉仕活動」の活発度が高く、「学習活動」「仕事」の活発度が低かった。この特徴は女性会員で顕著であった。一方、75歳未満の男性会員では、「社会参加・奉仕活動」「学習活動」「仕事」の活発度が低かった。会員の居住地区によって社会活動側面別の活発度に格差が認められた。交通機能の充実した市街地に居住する会員では「個人活動」「社会参加・奉仕活動」「学習活動」の活発度が高く、広い耕地面積を有する市の北東部、北西部に居住する会員では「仕事」の活発度が高いという地域格差であった。

結論 老人クラブ会員の社会活動レベルの特徴を明らかにすることができた。また、老人クラブへの入会、交通の便、産業構造といった環境条件が、高齢者の社会活動と関連する可能性が示唆された。

Key words : 高齢者, 老人クラブ, 社会活動, チェック表, 環境条件

* 埼玉医科大学公衆衛生学教室
連絡先：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38 埼玉医科大学公衆衛生学教室 高橋美保子